

バイオニュース 2016/12 報告

第 25 回高校生による研究発表会 バイオ甲子園 2016 開催しました！

去る 11 月 19 日、熊本市国際交流会館にてバイオ研究発表会「バイオ甲子園 2016」を開催しました。今年は、九州・中国・四国・関西・関東地方の 13 府県 26 テーマの申請があり、その中より書類選考にて 9 校が選抜。入賞校(9 県 9 校)にて本選での発表となりました。本選審査は熊本県農業研究センターバイオ育種研究室長飯牟禮和彦氏を審査委員長として、大学・研究機関から選出された 9 名の選考委員にて行われました。また、発表会后、参加者による茶話会を実施し、直接研究に関する意見交換の場として、情報交流の機会を設けました。



入賞式風景



最優秀賞旗返還
国分高校 田口君



選手宣誓
済々黌高校 福島君

発表風景



情報交換会にて



表彰式

最優秀賞

長崎県立長崎南高等学校 土橋バイオグループ
「長崎県農産物キクイモの機能性解明と食品開発」



優秀賞

鹿児島県立国分高等学校 サイエンス部(昆虫班)
「屋久島方言ツクツクボウシの研究Ⅱ
～幸屋火砕流による分布拡大仮説の検証と分布
拡大経路の解明～」

優秀賞

宮崎県立宮崎大宮高等学校 生物部
「ハクセンシオマネキの
生殖行動の鍵刺激と雌雄判別に関する研究」



入賞

福岡県立八女農業高等学校 バイオ部
「誰でも簡単！雑草抑制剤の開発を目指して～アレロパシーを利用した研究～」

大阪府立園芸高等学校 フラワーファクトリィ科 ハニービーサイエンスクラブ
「猪名川の外来植物調査報告 ミツバチを用いた環境調査から分かった事（外来種は本当に悪者か？）」

沖縄県立名護高等学校 生物・化学部
「仔だくさんソードテールは海越えず!?
～名護市我部祖河川におけるカダヤシ科魚類の繁殖に関する一考察～」

大分県立玖珠美山高等学校 地域産業科 チーム野菜
「パークを中心とした循環型農業の展開 校内から地域へ PartⅢ
～パークマットの地域への定着と限りなき可能性を探る～」

佐賀県立伊万里農林高等学校 食品化学科
「伊万里から発信 黒米の魅力！～地域食材を使った商品開発プロジェクト～」

熊本県立済々黉高等学校 生物部
「熊本市近郊のカエルの分布調査 ～ヌマガエルの背負いし謎 三年間の軌跡～」
(本選発表順)



審査委員長・飯牟禮氏



大会総評(抜粋)

さすがに予選を勝ち抜いてきてただけあり、点数のばらつきが少なく本当に苦慮致しました。

全体的な感想としては、年々プレゼン能力が向上していることを実感致しました。研究は内容も重要ですが、要点を整理して正確に相手に伝えること(プレゼン)がとても重要であり大事な能力だと思います。これは研究のみならず様々な分野で将来役に立つツールとして、持って頂ければと思います。また質問が当初少なかったのですが、後から活発になって良かったと思いますし、その応答も良かったと思います。ほか発表会後の意見交換会でも活発にディスカッションしている様子が伺え、良かったと思います。

最優秀賞に選ばれた長崎南高校の課題は人への効果の試験について、適切な手続きをふまえて行っていたこと。実用化の一手手前まで来ていることが評価されました。また分析評価においても、高度な設備がない中独自の分析方法を工夫し、相関も行っていたことも評価されました。

優秀賞の国分高校と宮崎大宮高校の課題は、地道なフィールドワークと的確なデータの蓄積、さらにそれらに基づいた考察が評価されました。

バイオ甲子園 2016 審査委員長